

Cisco TelePresence System

- Profile シリーズ
- Codec C シリーズ
- Quick Set C20
- SX20 Quick Set
- MX200
- MX300



ユーザ ガイド

バージョン TC6.1



何をしますか?

本書上部のメニューバーと目次の各項目には、すべてハイパーリンクが設定されています。クリックするだけで目的のトピックに移動します。

このガイドの改訂版が提供されていないか、シスコの Web サイトを定期的に確認することを推奨します。

URL : <http://www.cisco.com>

はじめに		コンテンツの共有	
ベスト プラクティス.....	4	コンテンツの共有：プレゼンテーションの実施.....	25
一般情報.....	4	レイアウトの変更.....	25
会議室にて.....	4	フルスクリーンプレゼンテーション.....	25
カメラ プリセットの使用.....	4	スケジュールされた会議	
スピーカーの音量.....	4	スケジュールされた会議について.....	27
明るさの制御.....	4	会議への参加.....	28
使いやすさの向上.....	4	会議の同時進行.....	29
タッチパッドの概要.....	5	進行中の会議の延長.....	29
基本的な操作方法.....	5	連絡先の管理	
自画面について.....	6	[履歴].....	31
カメラの調整.....	7	[ディレクトリ].....	31
カメラ プリセットの追加.....	8	[お気に入り].....	31
複数台のカメラを使用する場合.....	8	リストの検索.....	32
カメラ プリセットの編集.....	9	履歴のクリア.....	32
音量と着信音.....	10	設定	
ビデオ会議		設定について.....	34
名前または番号を入力して発信.....	12	[着信音とサウンド] の設定.....	35
通話中のタッチトーン (DTMF).....	12	[カメラ操作].....	36
連絡先への発信.....	13	[メインソースの選択].....	37
着信.....	14	[言語].....	38
複数の相手に発信		[日時と場所].....	39
ビデオ会議：複数の相手に発信 (オプション).....	16	[システム情報].....	40
ビデオ会議の作成 (MultiSite).....	17	[通信状態].....	41
ビデオ会議の作成 (Multiway™ または CUCM).....	18	[診断].....	42
通話中の別の着信に対する応答 (I).....	19	[再起動].....	43
通話のスワップ.....	21	[通話の詳細].....	44
通話の転送.....	21	[プロビジョニング].....	45
共有回線/バージン.....	21	[マルチポイントモード].....	46
通話中のレイアウト制御.....	22	[IP 設定].....	47
プレゼンターとして固定.....	22	[SIP] の設定.....	48
異なるレイアウトの選択.....	22	[H323] の設定.....	49
参加者リストの呼び出し.....	22	[EMC レジリエンスモード].....	50
自画面の PiP の追加.....	22	[Web スナップショット].....	51
自画面の PiP の移動.....	22	[リセット].....	52
通話中のカメラ プリセット.....	23		
自局カメラ操作.....	23		
相手先カメラ操作.....	23		



はじめに



ベスト プラクティス

理想的なビデオ会議では、参加者が何マイル離れていても、大陸を隔てていても、直接会って行う面談のような会議を実現します。このような場合も会議であることに変わりはありません。ビデオ会議でも通常のエチケットやドレス コードが適用されます。

一般情報

- ユニットは **[Automatic Answer]** に設定されていますが、プライバシー上の理由からマイクをミュート (消音) しておくことを推奨します。
- 必要に応じて、ビデオ システムをスムーズに操作できるようにするまで繰り返し練習してください。

会議室にて

- すべての会話が確実に認識されるように、マイクがテーブルの前面に置かれていることを確認します。最適な位置は、システムの少なくとも 2 m (6.5 フィート) 前で、さらに手前に最低 0.3 m (1 フィート) のテーブルが存在する平面上です。
- 指向性マイクをビデオ システムに向けないでください。
- 話をする参加者は、常にマイクが障害物で隠されていないことを確認してください。
- マイクは、テーブルに載せられたコンピュータやプロジェクタのファンなど、ノイズの発生源から必ず離して置く必要があります。このような発生源からのノイズは、非常に大きなサウンドとしてリモート参加者に知覚される場合がよくあります。
- ドキュメント用カメラを使用している場合は、会議のリモーターまたは指定されたコントローラの近くにカメラが位置するように、参加者の配置を変更してみてください。

- 参加者が会議中に向きを変えたり、画面を変更したり、記録したり、その他の機能を実行したりできるように、すべての周辺機器を手の届く範囲に配置するように注意します。
- 最も自然な会議環境を確保できるように、可能な場合はカメラを受信モニタの上部中央に配置します。接続先の相手と視線を交わせるように、直接カメラを会議参加者に向ける必要があります。このようなカメラの配置は、ビデオ システムの自画面機能を使用して確認してください。自画面設定では、リモート参加者に自分の映像 (発信ビデオ) が表示されます。
- コンテンツを共有する場合は、通常、デュアル ビデオを使用します。つまり、プレゼンテーションを表示するビデオ ストリームと、プレゼンターまたはプレゼンターのグループを表示するビデオ ストリームの 2 つを使用する必要があります。ただし、小さなシステムでは、プレゼンテーションとプレゼンターのどちらを表示するのか、選択を迫られる可能性があります。
- デュアル ビデオの場合は注意が必要です。デュアル ビデオでは、画面の半分にはプレゼンテーションが表示され、残りの半分にはプレゼンターが並んで表示されることがあります。リモート モニタにすべてが表示されていると、プレゼンテーションに背を向けて座っているという印象ではなく、プレゼンテーションのほうを向いているような印象が与えられます。疑わしい場合は、カメラをまっすぐ見て、このような状況を回避してください。

カメラ プリセットの使用

- Cisco TelePresence System では、ズームやカメラの方向 (パン) を事前に定義して作成できます。必要に応じて、これらの定義を使用して発言中の人物にズームインします。後で、もう一度ズームアウトすることを忘れないでください。

スピーカーの音量

- オーディオ システムでは、モニタ内蔵のスピーカーまたは Cisco Digital Natural Audio Module を使用します。
- モニタのリモコンを使用してモニタの音量を調整することで、デフォルトの音量レベルを設定できるシステムもあります。

明るさの制御

- モニタの明るさ、色、その他の設定を調整するには、モニタ自体のリモコンを使用します。会議室の状態に合わせてモニタを調整してください。シスコから供給されるモニタには、使いやすい画面メニューが用意されています。モニタ設定の詳細については、対応するユーザ マニュアルと管理者ガイドを参照してください。

使いやすさの向上

- 会議の参加者がダイヤルしたり、プレゼンテーションを追加したり、通話中に他の機能を使用したりする際の参考となるように、ポスター、テーブル テント、その他のクイックリファレンス ガイドなどを会議室に設置することを検討します。



タッチパッドの概要

ここをタップして、着信拒否機能を有効/無効にします。このページの下部も参照してください。

利用可能な場合は、ここをタップしてヘルプデスクにアクセスします。

ここをタップして自画面を有効にします。

ここをタップしてカメラ設定にアクセスします。

ここをタップして設定にアクセスします。

時刻が表示されます。

ここをタップして、スタンバイ機能を有効/無効にします。

タップしてマイクをミュート/ミュート解除します。

ここで音量を調整します (タップおよびドラッグ)。

不在時に着信したメッセージは、ここに表示されます。

ここをタップしてダイヤルパッドを呼び出します。

ここをタップして、[お気に入り]、[ディレクトリ]、および [履歴] を含む連絡先のリストを呼び出します。

ここをタップして、スケジュールされた今後の会議リストを呼び出します。

該当する場合は、ここをタップしてボイスメールシステムを呼び出します。

ここをタップしてコンテンツの共有を開始し、プレゼンテーションを実行します。



[着信拒否]: [着信拒否] に設定すると着信音はミュートされ、かかってきた電話は不在着信として表示されます。ただし、こちらから発信することは可能です。デフォルトで [着信拒否] には 60 分のタイムアウトが設定されますが (これを超えるとシステムは通常操作に戻る)、システム管理者が別の設定に変更している場合もあります。

基本的な操作方法



必要に応じて、タッチ画面をタップしてシステムを起動します。



ボタンをタップして機能を有効にします。



図のようにリストをスクロールします。



自画面について

会議が始まる前に、ビデオ システムの自画面を確認しておくことを推奨します。

自画面は、他の (リモート) 参加者に対して表示される映像であり、自分のシステムからの発信ビデオに当たります。

自画面はピクチャインピクチャ (PiP) として表示されます。

変更 (方向、ズームなど) を行う必要がある場合は、次のページを参照してください。

自画面の PiP の位置は必要に応じて変更できます。詳細については、22 ページの「自画面の PiP の移動」を参照してください。



図のように **[自画面]** をタップします。



自画面 (自分のシステムからの発信ビデオ) は、ピクチャインピクチャ (PiP) として表示されます。



ほとんどの Cisco TelePresence System では、ズームやカメラの方向 (パン) を事前に定義して作成できます。必要に応じて、これらの定義を使用して発言中の人物にズームインします。後で、もう一度ズームアウトすることを忘れないでください。詳細については、以降のページを参照してください。



カメラの調整

カメラのズームやパン（カメラを向ける方向）を調整したい場合があります。

カメラ操作メニューを有効にすると、自画面が自動的にオンになります（前のページも参照）。

さらに、ホワイトバランスを調整し、背後からの逆光を補正することもできます（逆光補正）。これらのトピックについては、36 ページの「カメラ操作」で取り上げます。



1 **[カメラ]** をタップして、**[カメラ]** メニューを呼び出します。

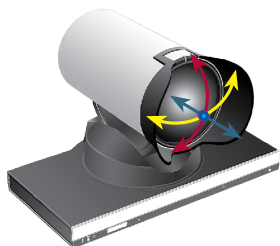


2 ここで、ズームインとズームアウトの調整を行います。

変更内容を有効にしてこのメニューを終了するには、メニュー以外の任意の場所をタップします。

これらのコントロールを使用して、カメラを向ける方向を定めます（パンおよびチルトコントロールとも呼ぶ）。

- パン
- チルト
- ズーム





カメラ プリセットの追加

ほとんどの Cisco TelePresence System では、ズームやカメラの方向 (パンとも呼ぶ) を事前に定義して作成できます。必要に応じて、これらの定義を使用して発言中の人物にズームインします。後で、もう一度ズームアウトすることを忘れないでください。

したがって、1 つ以上のズームイン プリセットを作成する場合は、概要モードへ簡単に切り替えられるように、ズームアウト (概要) プリセットも作成する必要があります。

複数台のカメラを使用する場合

一部のビデオ システムでは、複数台のカメラの使用をサポートしています。この場合、たとえば、あるカメラで参加者の状況を撮り、別のカメラでホワイトボードを撮ることができます。

カメラのプリセットを定義するとき、すべてのカメラの現在のパンとツールが、そのプリセットの一部として保存されることに注意してください。したがって、新しいプリセットとしてカメラの位置を保存する前に、すべてのカメラが必要な位置に設定されていることを確認する必要があります。



1 **[カメラ]** をタップして、**[カメラ]** メニューを呼び出します。



2 次に、図のように **[新しいプリセットの追加]** をタップします。既存のカメラプリセットが、図のようにすべてリストに表示されます。



3 ここで、ズームインとズームアウトの調整を行います。

これらのコントロールを使用して、カメラを向ける方向を定めます (パン コントロールとも呼ぶ)。



4 内容のわかる名前を入力し、**[保存]** をタップして変更内容を有効にします。

5 メニュー以外の任意の場所をタップしてメニューを終了します。



カメラ プリセットの編集

ほとんどの Cisco TelePresence System では、ズームやカメラの方向を事前に定義して作成できます。新しいカメラ プリセットを定義する方法については、前のページを参照してください。

既存のプリセットでは、パンやズームが変更されていたり、プリセット全体が削除されていたりする場合があります。プリセットの名前を変更する場合は、そのプリセットを削除してから新しいプリセットを作成する必要があります。



1 [カメラ] をタップして、
[カメラ] メニューを呼び
出します。



2 必要に応じて、パンおよびズームを調
整します。



3 次に、図のように編集するプリセットの
横の ▼ をタップします。



4 サブメニューで、**現在のプリセットを上書き**をタップして変更内容を有効にするか、**削除**をタップして選択したプリセットを削除します。

5 メニュー以外の任意の場所をタップしてメニューを終了します。



音量と着信音

必要に応じて、着信音とその音量をカスタマイズできます。また、キートーンを [オン] (「ボタン」をタップするとサウンドが鳴る) または [オフ] に設定できます。



1 [設定] をタップして、
[設定] メニューを呼び
出します。



2 必要に応じて、[着信音とサウンド]
の設定に移動します。

ここで、キートーンを有効 ([オン]) または無効 ([オフ]) にします。例では、[キートーン] は [オン] に設定されています。



ここをタップしてメニュ
ーを終了します。

ここで [着信音の音量]
を設定します。

着信音を選択します。着信音をタップ
すると、サウンドが聞こえます。



ビデオ会議



名前または番号を入力して発信

連絡先のリストに記載されていない相手に発信する場合は、タッチパッドの仮想キーボードを使用して名前、アドレス、または番号を入力できます。

仮想キーボードにアクセスするには、図のように **[ダイヤルパッド]** をタップします。



以前に電話をかけたことのある相手は (リストをクリアするまで) **[履歴]** リストに表示され、リスト内の相手は誰でも **[お気に入り]** リストに移すことができます。これについては、「連絡先の管理」セクションで説明します。

[お気に入り]、**[ディレクトリ]**、または **[履歴]** リストに記載されている相手に電話をかける方法については、次のページで説明します。

通話中のタッチトーン (DTMF)

通信中にタッチトーン (DTMF) の入力を求められることがあります。これは通常、内線に連絡するためか、暗証番号コードを入力するためです。

[タッチトーン] をタップして、キーパッドを呼び出します。



最初、ダイヤルパッドは次のように表示されます。



図のように番号を入力します。
代わりに英数字キーボードが必要な場合は、右側の段を参照してください。



番号を入力したら、**[発信]** キーをタップして電話をかけます。

123 モードと ABC モードは、次のように切り替えます。



図のように **[ABC]** をタップします。



タップすると、英数字キーボードが表示されます。数字を挿入する場合は、対応するキーをタップしたまま保持するか、図のように **[123]** をタップして数字モードに切り替えます。



これが数字モードのキーボードです。ダイヤルパッドの方が好みの方は、図のようにタップします。



最初のダイヤルパッドに戻ります。



連絡先への発信

連絡先のリストは、次の 3 つの部分から構成されています。

- **[お気に入り]**: この連絡先はユーザが設定します。エントリーは通常、頻繁に電話をかける相手、または迅速かつ簡単な方法でときどき連絡する必要のある相手になります。
- **[ディレクトリ]**: 通常、システム管理者がシステムにインストールした企業ディレクトリです。
- **[履歴]**: これまでの発信、受信、または不在着信の通話リストです。

[連絡先] にアクセスするには、図のように **[連絡先]** をタップします。



以下のオプションが適用されます。

- 名前と番号を入力して、すべてのリストを調べることができます。
- タブをタップしてからリストをスクロールするか、名前または番号を入力できます。検索は、その特定のリストに限定されます。
- 発信前に、エントリーのさまざまな側面を編集できます。

発信相手を検索するには、ここをタップして仮想キーボードを呼び出し、名前または番号を入力します。入力した内容に一致する項目が表示されます。3 つのリストすべてで、一致する項目の候補が調べられます。



連絡先の詳細については、「連絡先の管理」セクションを参照してください。

1
特定のリストだけを
検索する場合は、最初
に対応するタブを
タップします。

一致したすべての項目
は、ここに表示されま
す。エントリーをタップ
して選択します。選択し
たエントリーのバックグ
ラウンドは青色で表示
されます。



スマートフォンと同様の
操作で、リストをスクロ
ールしてエントリーを探
すこともできます。
エントリーをタップして選
択します。

2



見つかったエントリーを選択すると、[発信] メニューが表示されます。

[発信] をタップして発信します。使用できるオプションが複数あり、通常、これらはコンテキストに依存するため、関係のないオプションは表示されません。たとえば、**[お気に入りに追加]** は、[お気に入り] のリストにすでに表示されているエントリーに対して使用できません。



着信

以下が適用されます。

- 着信時には、応答、拒否、または無視することができます。
- 着信を拒否すると、通話中の情報が呼び出し側に送信されます。
- 着信を無視すると、呼び出し側によって留守中であると判断されます。
- 着信に対してシステムが自動的に応答するように設定できます (自動応答)。
- 自動応答を設定する方法については、44 ページの「[通話の詳細]」を参照してください。
- システム管理者により、このエリアがパスワード保護されている場合があります。

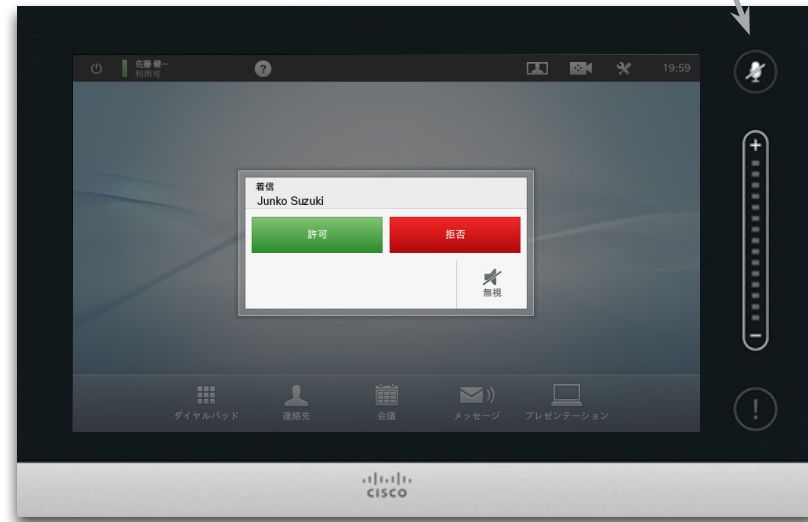
[自動応答] を有効にすると、プライバシーを保護するためにマイクをミュートしたい場合があります。この設定は常に手動で行う必要があります。



5 ページの「[着信拒否]」も参照してください。

システムが自動的に着信に応答するように設定するとき (自動応答)、プライバシーを保護するためにシステムのマイクをミュートしたい場合があります。

この記号が赤色に点灯している場合、マイクはミュートされています。マイクをミュート/ミュート解除するには、この記号をタップします。





複数の相手に発信



ビデオ会議：複数の相手に発信 (オプション)

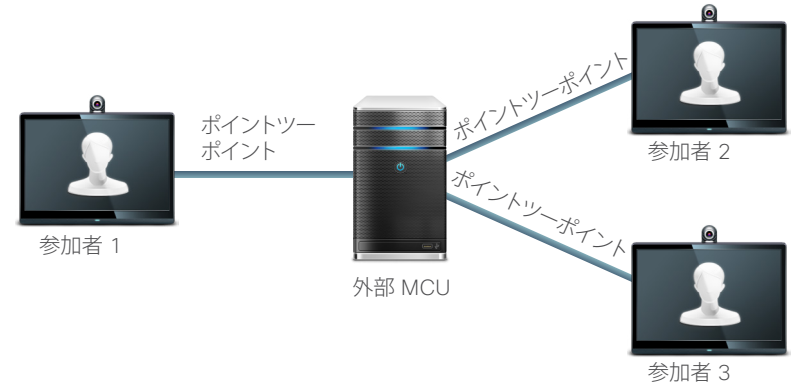
ビデオ通話は、2名の参加者だけ（ポイントツーポイント通話）でも、複数の参加者（ビデオ会議）でも行えます。複数の参加者との通話を処理する機能はオプションであり、お使いのビデオ システムまたはビデオ インフラストラクチャによって有無が異なります。不明な場合は、システム管理者にお問い合わせください。

シスコのビデオ システムでは、複数の参加者との通話に必要な機能を実装する、次の 3 つの方法が用意されています。

- 多地点接続端末 (MCU) :**これは、複数のソースからの通話を相互接続する中継地点です。すべての参加者が MCU ユニットに発信したり、参加予定の相手先に MCU ユニットから発信したりすることもできます。これは、すべての参加者が MCU とポイントツーポイント通話を行っていることを意味します。オフィスで MCU を使用している場合の操作方法については、システム管理者にお問い合わせください。
- MultiSite :**ビデオ システムにオプションで組み込まれている MCU で、複数の参加者との通話を可能にします。発信するビデオ システムは会議機能を備えている必要はありません。最高参加者数は、(自分自身を含む) 4 名プラス音声限定通話の参加者 1 名です。
- Multway :**複数の参加者との通話を開始すると同時に、その通話を外部 MCU へ転送するオプション機能です。ただし、その制御はすべて、お使いのシステムから直接行います。MCU へ発信する必要はなく、すべての操作はお使いのシステムから行います。

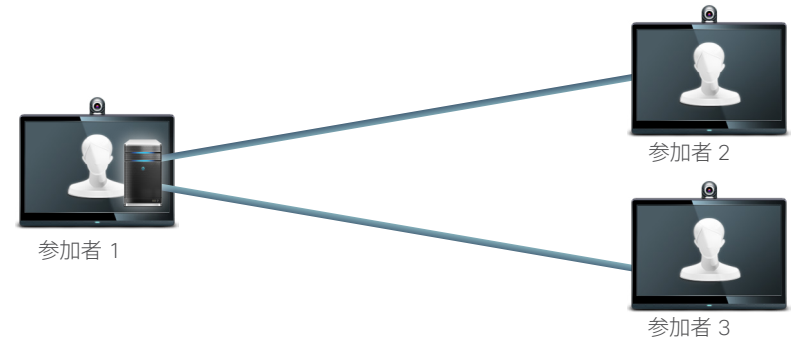
外部 MCU を使用したビデオ会議 (Multway を使用する場合と使用しない場合)

同時参加者数の上限は、実装された設定に完全に左右されます。



MultiSite を使用したビデオ会議 (内蔵 MCU と同等)

最高同時参加者数は、(自分自身を含む) 4 名プラス音声限定通話の参加者 1 名です。



2 と 3 は、この通話を MCU とのポイントツーポイント通話として体験します。したがって、これらの参加者のシステムに会議機能が組み込まれている必要はありません。



ビデオ会議の作成 (MultiSite)


お使いのビデオ システムにオプションの MultiSite 機能が装備されている場合は、複数の参加者に発信してビデオ会議を開始できます。

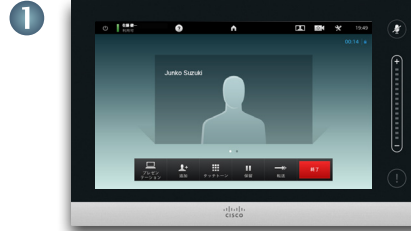
MultiSite 機能では、ビデオ通話を他の 3 つのシステムに発信し、さらに音声限定通話を 4 番目のシステム (たとえば携帯電話) に発信することができます。

したがって、最高で (自分自身を含む) 4 名のビデオ参加者と 1 名の音声参加者によって会議を構成することが可能です。

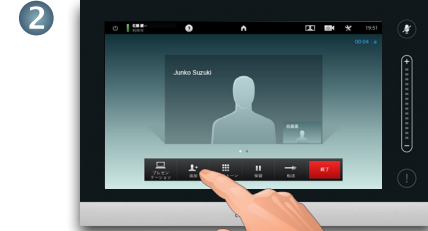
ビデオ会議を開始する場合は、参加者 1 名ずつに電話をかける必要があります。

[通話設定]: 発信先のビデオ システムは、異なる機能を装備している可能性があります。たとえば、(他の参加者と比べて) 帯域幅が不十分な ADSL システム上で作動する機能などがあります。このような場合は発信する前に、[通話設定] を相手先のシステムに適した (通常、より低い) 帯域に設定できます。ただし、この帯域は、ビデオ会議のその特定の部分にのみ影響を及ぼすため、他の参加者がより低い帯域を体験することはありません。

 16 ページの「ビデオ会議: 複数の相手に発信 (オプション)」も参照してください。



1 最初の参加者に電話をかけます。



2 通話状態になったら、[追加] をタップします。



3 通常どおり、次の参加者に電話をかけます。




4 [追加] をタップして 2 番目の電話をかけ、会議を開始します。必要に応じて、電話をかける前に [通話設定] を調整できます。

5 必要に応じて、2 から手順を繰り返します。
最高でビデオ システム通話に (自分自身を含む) 4 名、音声通話に 1 名が参加できます。



6 [終了] をタップして、会議を終了します。

 会議を開始したユーザは、会議を終了させることもできます。ただし、その他の参加者は、自分自身を会議から切断できるだけです。



ビデオ会議の作成 (Multiway™ または CUCM)

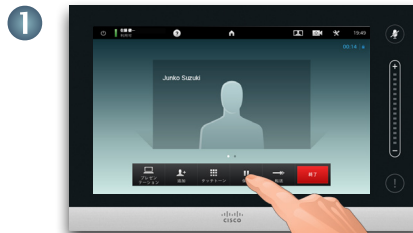
お使いのビデオ システムにオプションの Multiway 機能が装備されている場合は、複数の参加者に発信してビデオ会議を開始できます。

Multiway 会議の最高参加者数は、組織で実装されているビデオ インフラストラクチャに完全に左右されます。不明な場合は、システム管理者にお問い合わせください。

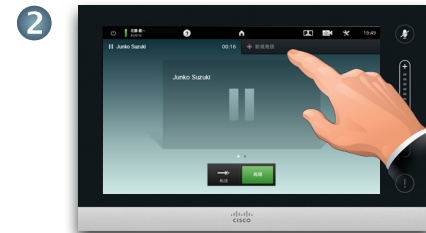
ビデオ会議を開始する場合は、参加者 1 名ずつに電話をかける必要があります。

[通話設定]: 発信先のビデオ システムは、異なる機能を装備している可能性があります。たとえば、(その他と比べて) 帯域幅が不十分な ADSL システム上で作動する機能などがあります。このような場合は発信する前に、[通話設定] を相手先のシステムに適した (通常、より低い) 帯域 (帯域幅) に設定できます。ただし、この帯域は、ビデオ会議のその特定の部分にのみ影響を及ぼすため、他の参加者がより低い帯域に悩まされることはありません。

16 ページの「ビデオ会議: 複数の相手に発信 (オプション)」も参照してください。



すでに通話しているとき、**[保留]** をタップします。



[+ 新規発信] をタップします。

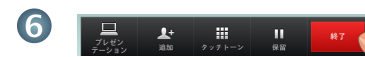


通常どおり、次の参加者の名前またはアドレスを検索するか、入力します。



[発信] をタップして 2 番目の電話をかけ、会議を開始します。

5 必要に応じて、2 から手順を繰り返します。
最高でビデオ システム通話に (自分自身を含む) 4 名、音声通話に 1 名が参加できます。



[終了] をタップして、会議を終了します。

会議を開始したユーザは、会議を終了させることもできます。ただし、その他の参加者は、自分自身を会議から切断できるだけです。



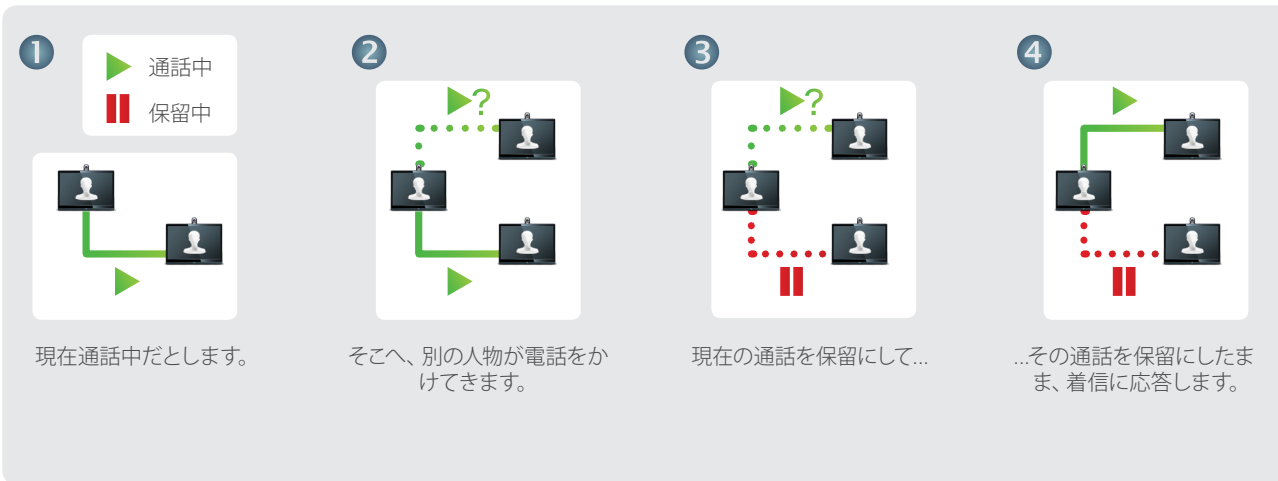
通話中の別の着信に対する応答

(I)

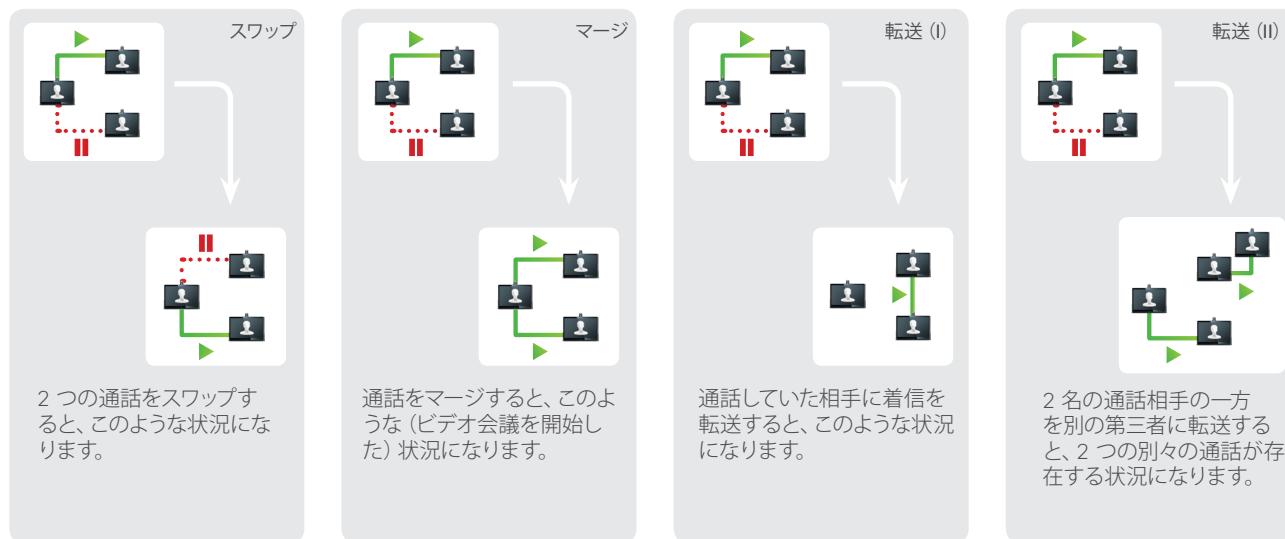
すでに通話中であるとして、このとき、別の着信を受けた場合は、複数のオプションがあります。

接続中の通話に着信をマージできるのは、お使いのビデオシステムに MultiSite または Multiway/CUCM オプションが装備されている場合に限られる点に注意してください。

シナリオ:



このとき、以下のオプションが用意されています。





通話中の別の着信に対する応答 (II)

すでに通話中であるとして、このとき、別の着信を受けた場合は、以下のオプションがあります。

- 着信を拒否して現在の通話を継続できます。
- 現在の通話を保留にして、新しい通話に応答できます。いつでも 2 つの通話をスワップできますが、MultiSite も MultiWay も導入されていないシステムでは会議を作成できません。したがって、両方の相手と会話するにはこの方法に限定されます（つまり、一度に一方と会話する）。ただし、1 つの音声限定通話を追加することは可能です。
- 通話していた相手を含む、自分以外の人物に着信を転送できます。詳細については、次のページを参照してください。
- 着信を保留にしてから、保留にした通話を既存の通話とマージできます（会議オプションを必要とするオプション機能）。
- 着信を直接、現在の通話にマージできます（**許可してマージ**）。ただし、これはお使いのビデオ システムに MultiSite オプションが装備されている場合のみ可能です。

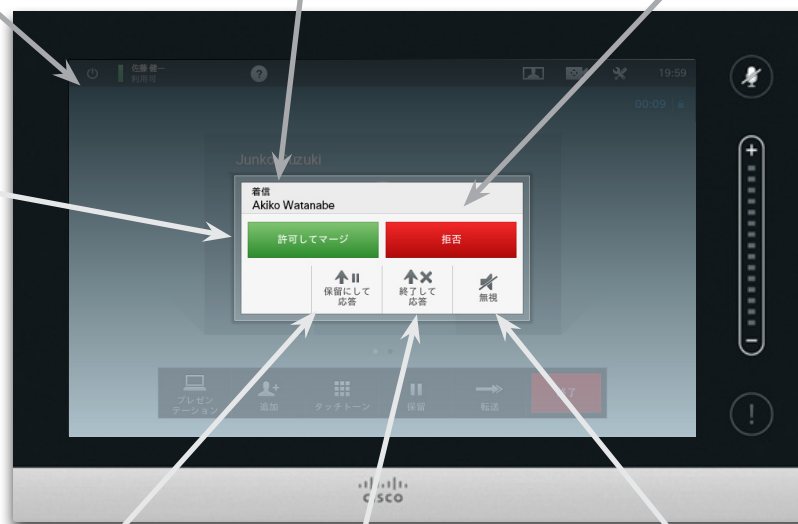
Multiway の場合は、着信を現在の通話に加えることを承認する際、若干の遅延が発生する可能性があります。これは、外部 MCU に通話を転送するためです。

すでに通話中の相手。

新しい着信の ID。

着信を拒否して現在の通話を継続します。

着信を許可して現在の通話とマージします*。MultiWay の場合は、マージが行われる前に現在の通話（または通話のグループ）を保留にする必要があります。これは、着信を MCU に転送してからマージする必要があるためです。



現在の通話または通話グループを保留にして、着信に応答します。

現在の通話または通話グループを終了して、着信に応答します。

着信を無視します（呼び出し側には留守中であると表示されます）。

* お使いのシステムに MultiSite が装備されている場合は、着信を現在の通話とマージできます。MultiSite が導入されていないシステムでも着信をマージできますが、音声限定通話になります。



通話のスワップ

通話中であり、別の人と話すために現在の通話を保留にします。

以下のように実行します。

1. 図のように **[保留]** をタップします。



2. 図のように **[+ 新規発信]** をタップします。



3. 通常どおり、電話をかけます (右側参照)。

4. **[スワップ]** をタップして、2 名の通話相手を切り替えます。



通話の転送

通話中であり、その通話相手を別の人に転送するとします。以下のように実行します。

1. 図のように **[転送]** をタップします。



2. 通常どおり、通話先を選択します。



3. その通話を転送する準備ができたなら、**[転送完了]** をタップして、転送を実行します。



共有回線/バージン

コールセンターで使用されるビデオシステムでは、共通の回線を共有するように設定し、回線を共有している誰でも着信に応答できるようにすることが可能です。



共有回線での活動は、他のシステム上でこのように示されます。

[バージ] ボタンが利用可能な場合は、現在の通話にバージできます。

通話が保留に設定されると、**[バージ]** ボタンは **[再開]** に切り替わり、別のユニットから通話に応答できるようになります (表示されていません)。これは CUCM 専用の機能です。





通話中のレイアウト制御

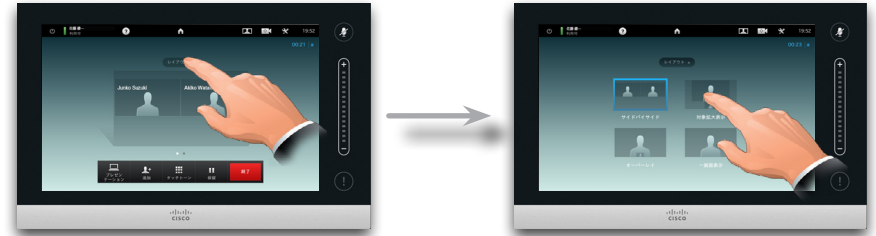
通話中に、画面のレイアウトを変更できます。タッチパッドには使用可能なオプションが表示されます。実際のオプションはここに示されているものと異なる場合がありますが、タッチパッドには使用可能なオプションが常に表示されます。

WYSIWYG (What You See Is What You Get) の原則がここでも適用されます。

異なるレイアウトの選択

通話中、図のように **[レイアウト]** をタップし、好みのレイアウトを選択します。

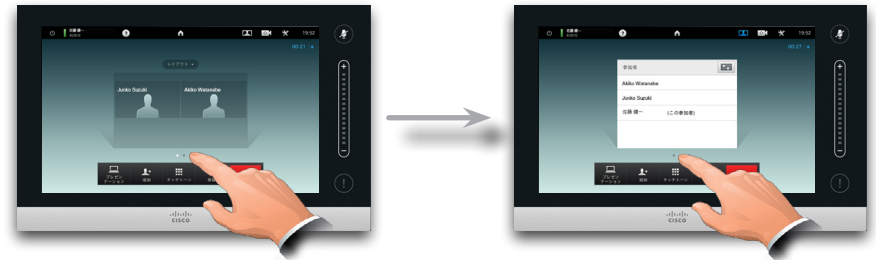
何も変更せずにレイアウトを終了する場合は、**[レイアウト]** をもう一度タップします。



参加者リストの呼び出し

ボタンの行のすぐ上にある、**太字**で表示されていないドットをタップして、参加者のリストを呼び出します。

もう一方のドットをタップすると、最初の状態に戻ります。



プレゼンターとして固定

参加者の 1 名が他の参加者よりも大きく表示されるように、システムを設定しているとします。

この人物に代わって他の誰かが発言し始めた場合、システムはその人物の画像に切り替えて表示します。このような切り替えが行われないように、現在話している人物をプレゼンターとして固定できます。

図に示したレイアウトから開始し、図に示すようにタップしてから **[プレゼンターとして固定]** をタップします。

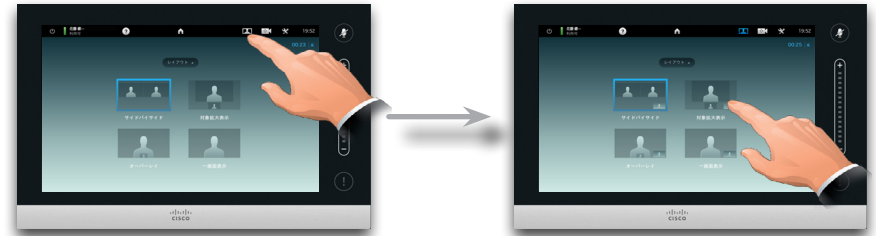
固定を解除するには、このプロセスを繰り返して **[プレゼンターから解除]** をタップします。



自画面の PiP の追加

通話中の任意の時点で、図のようにタップして画面に自画面を追加します (これは、リモート参加者に表示されません)。

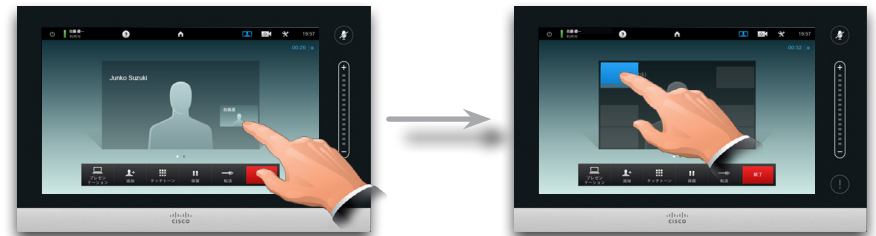
自画面は PiP (ピクチャインピクチャ) として表示されます。



自画面の PiP の移動

図のように、PiP をタップしたまま保持します。

PiP が青色に変わったら、新しい位置までドラッグできます。図のように、事前に定義されている 6 つの位置から選択できます。





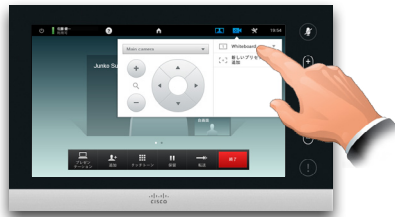
通話中のカメラ プリセット

システムにカメラ プリセットが保存されている場合があります。その場合は、通話中いつでも、これらのプリセットを使用できます。カメラ プリセットの定義方法については、8 ページの「カメラ プリセットの追加」を参照してください。以下のように実行します。

1. 図のようにカメラのアイコンをタップします。



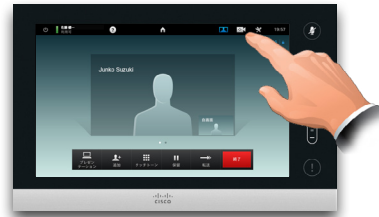
2. 図のように必要なプリセットを選択します。



自局カメラ操作

通話中いつでも、自分のカメラを手動で操作できます。自分のカメラは、自局カメラとも呼びます。以下のように実行します。

1. 図のようにカメラのアイコンをタップします。



2. 図のように、カメラのパンおよびズームを調整します。

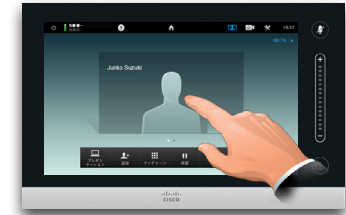


3. メニュー以外の任意の場所をタップして終了します。

相手先カメラ操作

相手の参加者のシステムに調整可能なカメラが装備されている場合は、そのカメラのパンやズームを制御できることがあります。以下のように実行します。

1. 図のようにタップします。複数の参加者と通話（会議）している場合は、カメラを調整する参加者をタップします。



2. 次に、**[カメラ操作]** をタップします。



3. 必要に応じて、パンおよびズームを調整します。



4. メニュー以外の任意の場所をタップして終了します。



コンテンツの共有



コンテンツの共有：プレゼンテーションの実施

コンテンツの共有は、通話中でも、通話していない状態のときでも実行できます。後者の場合、ビデオ システムを使用して、実際の会議室でコンテンツを共有できます。

プレゼンテーション ソースを接続し、スイッチが [オン] になっていることを確認してから、ビデオ システムに接続してください。

実行中のプレゼンテーションは、通話を終了すると自動的に終了するわけではありません。システムから、プレゼンテーションを停止するように求められます。

コンテンツの共有

- 1 ソースが接続されてオンになっていることを確認します。図のように **[プレゼンテーション]** をタップします。
- 2 必要に応じて、図のようにスクロールし **(a)**、必要なソースを見つけます。次に、**[表示]** をタップします **(b)**。これで画面にプレゼンテーションが表示されます。ソースの資料を表示できない場合は、警告が表示されます。
- 3 プレゼンテーションが終わったら、図のように **[表示の停止]** をタップします。

レイアウトの変更

プレゼンテーション中、図のように **[レイアウト]** をタップして、使用可能なレイアウト オプションを表示します。オプションはここに示されているものと異なる場合がありますが、選択できるレイアウトが表示されます。

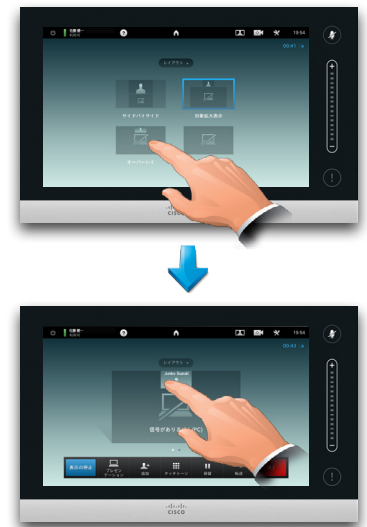
好みのレイアウトをタップして、そのレイアウトの使用を開始します。



フル スクリーンのプレゼンテーション

自画面のように、PIP (ピクチャインピクチャ) でプレゼンターを表示したフル スクリーンのプレゼンテーションをシステムに設定できます。これを有効にするには、図のようにタップします。このオプションは、レイアウトをカスタマイズしたシステムでは表示されない場合があります。

PIP は、青色になるまでタップしたまま保持すると、別の位置に移動できます。この場合、図のように別の位置へ移動できます。



[プレゼンテーション] をタップする前に、プレゼンテーション ソースのスイッチがオンになっているビデオ システムに接続されていることを確認します。





スケジュールされた会議



スケジュールされた会議について

お使いのビデオ システムは、ビデオ会議をスケジュールできる管理システムに接続されている場合があります。この場合は、スケジュールされたすべての会議が会議リストに表示されます。

会議リストには、今後 14 日（この設定は管理者が変更している場合もある）以内の開催がスケジュールされた会議のリストが含まれています。リストは、グループ ヘッダーを使用して、ソートされます。主要なグループ カテゴリは、日別（例：今日、明日、水曜日、2013 年 7 月 20 日など）です。

リスト内の項目のいずれかをタップすると、詳細情報が表示されます。

スケジュールされた会議が [プライベート会議] として表示される場合は、主催者の情報のみが含まれます。会議のタイトル、展開画面の会議の概要、およびダイヤルイン情報は表示されません。

ビデオ システムが会議に参加できるようになると、会議リマインダーが表示されます。正確にいつ表示されるかは、システム管理者が設定する開始時刻バッファ設定により異なります。デフォルトのバッファ設定は 10 分です。

会議リマインダーは、時刻インジケータで会議がいつ始まるか、または会議がどのくらい続いているか（継続している会議は、進行中の会議と呼ばれる）を示します。

スケジュールされた会議の開始時刻の 30 秒前から 30 秒後まで、[今すぐ開始] というテキストが表示されます。



[会議] をタップして、会議リストを作成します。



リストされたいずれかの会議をタップすると、その会議の詳細情報が表示されます。会議が [プライベート会議] としてリストされている場合、この操作は適用されません。右端の画像を参照してください。





会議への参加

スケジュールされた会議に参加できる時間は、開始時刻バッファ設定により異なります。デフォルトの設定は 10 分前ですが、システム管理者が別の値を設定している場合があります。

それ以前に参加することはできません。

会議が始まると、参加するか、表示を消す選択肢が提示されます。または、参加を延期して、5 分後に通知してもらうこともできます (スヌーズ)。

すでに通話中の場合は、現在の通話を保留にしてその会議に参加する選択肢も追加で提示されます。

これは、その他の着信と似ています。唯一の違いは、着信がスケジューリング システムによって開始される点です。

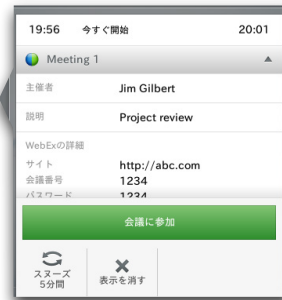


リストの会議をタップすると、その会議の詳細情報が表示されます。

会議の詳細情報を表示するには、以下のように実行します。



ここをタップして展開し、詳細を表示します。



ここをタップして折りたたみます。

スケジュールされた会議が [プライベート会議] として表示される場合は、主催者の情報のみが含まれます。会議のタイトル、展開画面の会議の概要、およびダイアルイン情報は表示されません。



スケジュールされた会議には自動的に接続される場合や、**[会議に参加]** をタップする必要がある場合もあります。



デフォルト設定では、最高 10 分前に参加できますが、システム管理者が別の設定を施している場合があります。



会議が始まると、参加するか、参加の決定を 5 分間延期するか、表示を消すだけの選択肢が提示されます。



会議の開始時に通話中であった場合は、現在の通話を保留にして参加するかどうかの選択肢も提示されます。これは、すでに通話しているときに誰かが電話をかけてきた状況と同様です。



会議の同時進行

会議が同時進行の状態（2 つ以上の会議が同時に開催される状態）にある場合、リマインダーには、会議リストに基づき、予定されているすべての会議が表示されます。参加する会議を選択し、選択した会議に参加します。

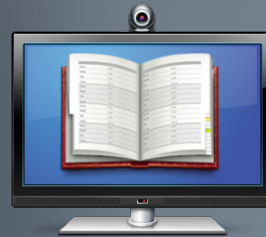


進行中の会議の延長

スケジュールされた会議の場合、開始時間と終了時間は固定されています。進行中の会議を延長することもできます。可能な延長期間中に、どのビデオ システムでも他の会議がスケジュールされていないことを条件として、システムはこの延長を許可します。

延長を持続できる場合、[会議は...終了します] の通知に **[延長]** および **[表示を消す]** オプションが含まれます。

- 会議を延長する場合は、**[~分間延長]** ボタンをタップします。



連絡先の管理



[履歴]

[履歴]には、前回リストがクリアされて以降の着信、発信、不在着信がリストされます。



エントリをタップして、以下の操作を実行できます。

- [発信] をタップして、エントリに発信できます。
- エントリを現在の通話に追加します (オプション)。
- エントリを [お気に入り] に追加します。
- エントリ情報を編集してから、発信できます。
- 帯域の設定を変更できます。
- このエントリをリストから削除できます。
- リスト全体をクリアします。詳細については、次のページを参照してください。

[ディレクトリ]

[ディレクトリ] は、会社の電話帳として機能します。このディレクトリは、ユーザは編集できません。ただし、エントリをお気に入りのリストにコピーして、そこで編集することはできます。



フォルダをタップ (a) してその内容を表示し、必要に応じてスクロール (b) して、フォルダ内のフォルダやエントリを見つけます。

見つけたら、履歴リストの場合と同様に、エントリをタップして発信、編集、またはお気に入りのリストへの追加を行います。

ディレクトリからお気に入りのリストにコピーしたエントリが、その後ディレクトリで更新される場合があります。この場合、更新内容はお気に入りのリストに反映されません。したがって、お気に入りのリスト内のエントリを手動で更新する必要があります。

[お気に入り]

[お気に入り] は、よく通話する連絡先、あるいは、簡単にアクセスできるようにしたい連絡先の候補者リストです。

[お気に入り] にアクセスする方法は、[履歴] および [ディレクトリ] と同様です。

[お気に入り] への追加: [お気に入り] リストに相手を追加するには、[ディレクトリ] または [履歴] で目的のエントリを見つけてそれをタップします (a)。ダイアログボックスが表示されたら、[お気に入りに追加] をタップします (b)。



このとき、必要に応じてエントリを編集できます。フィールドをタップすると、キーボードが表示されます。[保存] をタップし、変更を有効にします。

[お気に入り] は編集可能なディレクトリと見なすことができます。[履歴] と同じように使用します。



リストの検索

あらゆるリスト内のエントリ (名前、番号、アドレス) は検索できます。検索はすべてのフォルダ内、つまり、[お気に入り]、[ディレクトリ]、[履歴] 内を対象に実行されます。

[検索またはダイヤル] フィールド (a) をタップし、名前、アドレス、または番号を入力します (b)。検索対象と一致する項目が表示されます。

エントリを見つけたら、タップして電話をかけたり、エントリを編集したり、エントリを [お気に入り] に追加したりします。

企業ディレクトリ内で検索を実行する場合、検索対象は現在のディレクトリ フォルダとそのサブフォルダのみになります。1 つ上のレベルに移動するには、**[戻る]** をタップします。検索対象を企業ディレクトリ全体にするには、検索の開始前にフォルダを入力 (タップ) しないでください。



履歴のクリア

プライバシー上の理由から、[履歴] リストをクリアしたい場合があります。

- 1 必要に応じて、図のように **[ダイヤルパッド]** をタップします。



- 2 図のように、スクロール可能なところまでスクロールします。これによって、**[履歴のクリア]** ボタンが現れます。



- 3 図のように **[履歴のクリア]** をタップします。





設定

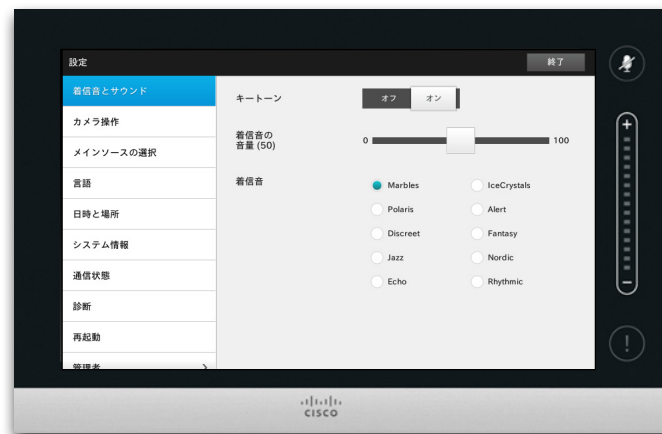


設定について

このガイドで使用方法が説明されているビデオ エンドポイントの設定は、タッチ画面コントローラか Web インターフェイスから行うことができます。設定可能なすべてのパラメータにアクセスするには、Web インターフェイスを使用します。タッチ画面コントローラからアクセスできるパラメータは制限されています。

[設定] を変更する場合は、システムが機能停止しないように注意を払う必要があります。不明な場合は、システム管理者にお問い合わせください。

[設定] を表示するには、右の図のように [設定] アイコン (⚙️) をタップします。





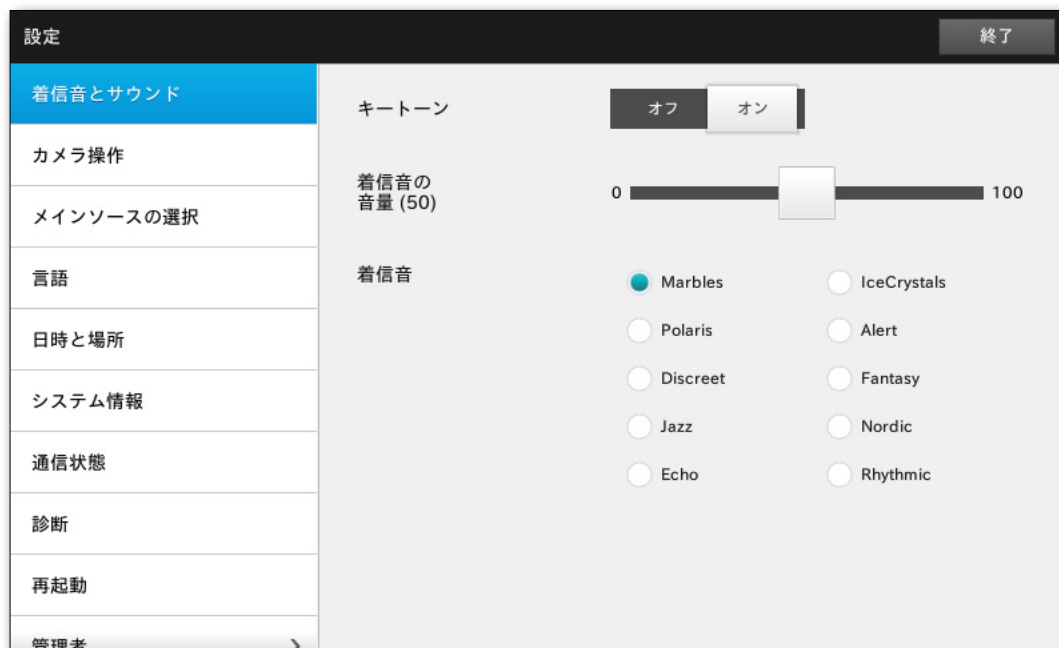
[着信音とサウンド] の設定

[着信音とサウンド] の設定ウィンドウでは、次の項目を設定できます。

- **[キートーン] の [オン] または [オフ]:** [オン] に設定すると、タッチ画面コントローラのフィールドをタップするたびに、サウンドが聞こえます。
- **[着信音の音量]:** 着信音の音量を設定します。
- **[着信音]:** 複数の着信音から選択できます。着信音のオプションをタップすると、サンプルのサウンドが聞こえます。

設定を選択したら、どのような内容が表示されるか注意してください。例では、[キートーン] は [オン] に設定されています。

[設定] > [着信音とサウンド] の設定





[カメラ操作]

[カメラ操作] ウィンドウでは、カメラのホワイトバランスと露出を設定できます。手動で微調整しない場合は、**[自動]** をタップしてシステムに任せます。

[逆光補正] は、背後が明るすぎる場合に便利です。逆光補正がないと、こちらの画像が相手に非常に暗い状態で見えてしまいます。

設定を選択したら、どのような内容が表示されるか注意してください。例では、[逆光補正] は [オフ] に設定されています。

[設定] > [カメラ操作]



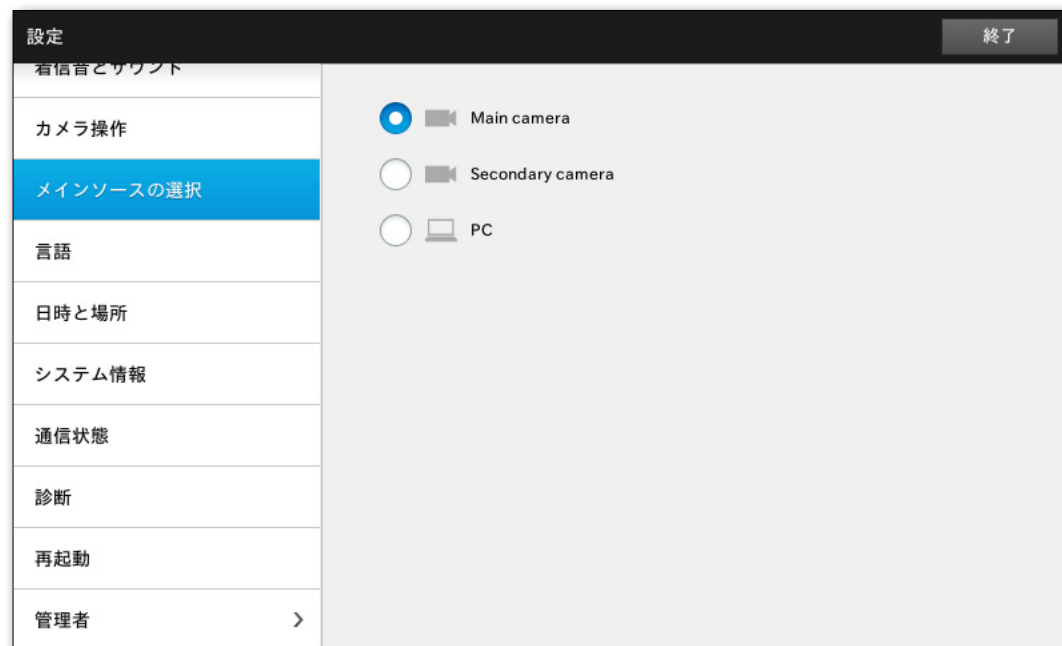


[メイン ソースの選択]

デフォルトでメイン ソースとして設定するものを選択します。システムの操作中に別のソースを選択することも可能ですが、ここで指定したものがデフォルトの設定になります。

使用できるオプションはシステムによって異なります。お使いのシステムに表示されるオプションは、これより多い場合も少ない場合もあります。

[設定] > [メイン ソースの選択]

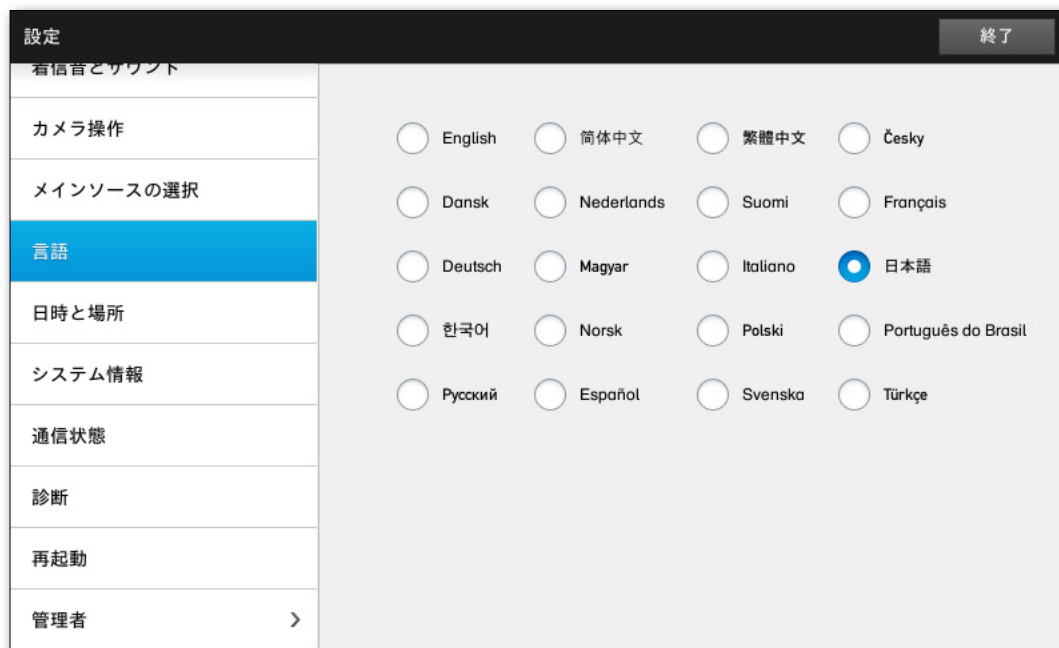




[言語]

[言語] ウィンドウでは、Touch インターフェイスのメニューの言語を指定できます。

[設定] > [言語]





[日時と場所]

このウィンドウでは、好みの日付と時刻の形式のほか、タイムゾーンを指定できます。

[日付と時刻モード] を [自動] (この例の設定) に設定した場合、システムは NTP サーバを検索し、そのサーバから日付と時刻を取得します。

[NTP モード] を [手動] に設定した場合は、機能させるために NTP サーバのアドレスを指定する必要があります。

[設定] > [日時と場所]



[システム情報]

[システム情報] ウィンドウには、システムのソフトウェアやハードウェアのバージョン、接続、SIP、H.323 ステータスなどの情報が表示されます。

[設定] > [システム情報]

設定		終了
着信音とサイン		
カメラ操作		
メインソースの選択		
言語		
日時と場所		
システム情報		
通信状態		
診断		
再起動		
管理者	>	

システム	
名前:	ktcasper
稼働時間:	2時間53分
ネットワーク	
IPv4アドレス:	10.47.37.218
IPv6アドレス:	
音声VLAN ID:	オフ
H323	
番号:	5037218
ID:	5037218@itvm.tandberg.com
ゲートキーパー:	10.47.8.209
ステータス:	登録済み
SIP	
アドレス:	7037218@itvm.tandberg.com
プロキシ:	10.47.8.209
ステータス:	登録済み。暗号化あり。未検証。
ソフトウェア	
バージョン:	TC6.1.0.36d0324 (TEST SW, tc-6.1.0-rc1-21-gd3b4cda)
タッチ画面:	TT6.1.0.36d0324 2013/04/09-16:05:16
導入済みオプション:	MultiSite, NaturalPresenter, PremiumResolution



[通信状態]

[通信状態] ウィンドウには、帯域や暗号化のほか、ビデオや音声の重要なパラメータに関する情報が表示されます。

[設定] > [通信状態]

設定
終了

着信音とサイン	
カメラ操作	
メインソースの選択	
言語	
日時と場所	
システム情報	
通信状態	
診断	
再起動	
管理者 >	

参加者				
URI:				
帯域:	n/a	暗号化タイプ:	n/a	
プロトコル:	n/a	暗号化状況:	n/a	
ビデオ	送信	アプレケーション	受信	アプレケーション
プロトコル:	n/a	n/a	n/a	n/a
解像度:	n/a	n/a	n/a	n/a
フレームレート:	n/a	n/a	n/a	n/a
帯域:	n/a	n/a	n/a	n/a
n ^o ネットロス合計(%):	n/a		n/a	
現在のn ^o ネットロス(%):	n/a		n/a	
ジッター:	n/a		n/a	
音声	送信	受信		
プロトコル:	n/a	n/a		
帯域:	n/a	n/a		
n ^o ネットロス合計(%):	n/a	n/a		
現在のn ^o ネットロス(%):	n/a	n/a		
ジッター:	n/a	n/a		



[診断]

トラブルシューティングのために、追加のシステム ログ記録を有効にすることができます。画面の指示に従ってください。

進行中のシステム ログ記録が、システム パフォーマンスに影響を及ぼす場合があります。

[設定] > [診断]





[再起動]

この機能を使用すると、システムを所定の方法で再起動できます。

[設定] > [再起動]





[通話の詳細]

[自動応答] を有効にしている場合、指定した遅延時間が経過すると、システムが自動的に着信に応答します。自動応答によって、適切なプライバシー保護が得られない場合がある点に注意してください。例では、[自動応答] は [オフ] に設定されています。

通話の帯域幅（つまり品質）を変更する必要が生じることがあります。一部の設定では、異なる受信および発信帯域幅を使用している場合があります（通常、ADSL 接続）、安定したビデオ品質を確保するために標準帯域を指定できます。

標準プロトコルも指定できます。例では、プロトコルは [SIP] に設定されています。

[設定] > [管理者設定] > [通話の詳細]

このメニューは [管理者設定] の中にあります。
[戻る] をタップして [管理者設定] を終了し、
[終了] をタップしてすべての設定を終了します。



[プロビジョニング]

システムをオンラインにするために使用できるプロビジョニング ウィザードが用意されています。**[開始]** をタップして、画面の指示に従います。

[設定] > [管理者設定] > [プロビジョニング]

このメニューは [管理者設定] の中にあります。
[戻る] をタップして [管理者設定] を終了し、
[終了] をタップしてすべての設定を終了します。





[マルチポイント モード]

お使いのビデオ システムに、一度に複数の参加者と通話するためのオプション機能が用意されている場合があります (ビデオ会議)。

ビデオ会議には、基本的に MultiWay と MultiSite の 2 つのモードがあります。詳細については、16 ページの「ビデオ会議: 複数の相手に発信 (オプション)」を参照してください。

以下の点に注意してください。

- MultiWay を有効にするには、[MultiWay アドレス] を入力している必要があります。
- [MultiWay アドレス] を指定していて [MultiWay] を選択した場合は、MultiWay が常にビデオ会議に使用されます。
- [MultiWay アドレス] を指定しているが [MultiSite] を選択した場合は、MultiSite が使用されます。
- [自動] に設定した場合は、[MultiWay アドレス] が指定されていれば MultiWay が使用され、指定されていなければ MultiSite が使用されます。
- [オフ] に設定した場合は、ビデオ会議を使用できません。
- MultiSite 機能を使用するには、MultiSite オプションが存在している必要があります。

[設定] > [管理者設定] > [マルチポイント モード]

このメニューは [管理者設定] の中にあります。
[戻る] をタップして [管理者設定] を終了し、
[終了] をタップしてすべての設定を終了します。



[IP 設定]

IPv4 と IPv6 のどちらを使用するのか、および静的 IP アドレスと DHCP のどちらを使用するのかを指定できます。
[静的] に設定した場合は、それに応じて該当するアドレスを設定する必要があります。

[設定] > [管理者設定] > [IP と VLAN]

このメニューは [管理者設定] の中にあります。
[戻る] をタップして [管理者設定] を終了し、
[終了] をタップしてすべての設定を終了します。

項目	設定値
IPバージョン	IPv4
IP取得方法	DHCP
IPアドレス	10.47.37.218
サブネットマスク	255.255.255.0
ゲートウェイ	10.47.37.1
DNSサーバ1	10.47.1.61
DNSサーバ2	10.47.1.14
DNSサーバ3	
DNSドメイン名	rd.tandberg.com cisco.com



[SIP] の設定

このウィンドウを使用して、SIP を設定します。

[設定] > [管理者設定] > [SIP]

このメニューは [管理者設定] の中にあります。
[戻る] をタップして [管理者設定] を終了し、
[終了] をタップしてすべての設定を終了します。

管理者設定	
戻る	終了
通話の詳細	URI: 7037218@itvm.tandberg.com
プロビジョニング	デフォルトのトランスポート: TCP, UDP, TLS, 自動
マルチポイントモード	プロキシタイプ: - Standard +
IPとVLAN	プロキシの検出: 自動 , 手動
SIP	プロキシアドレス: 10.47.8.209
H323	ログイン名: []
EMCレジリエンス	パスワード: []
Webスナップショット	
リセット	



[H323] の設定

このウィンドウを使用して、H323 を設定します。

[設定] > [管理者設定] > [H323]

このメニューは [管理者設定] の中にあります。
[戻る] をタップして [管理者設定] を終了し、
[終了] をタップしてすべての設定を終了します。

管理者設定	
通話の詳細	H323 番号: 5037218
プロビジョニング	H323 ID: 5037218@itvm.tandberg.com
マルチポイントモード	ゲートキーパーの検出: 自動 (手動)
IPとVLAN	ゲートキーパーアドレス: 10.47.8.209
SIP	認証モード: オフ (オン)
H323	ログイン名: []
EMCレジリエンス	パスワード: []
Webスナップショット	
リセット	



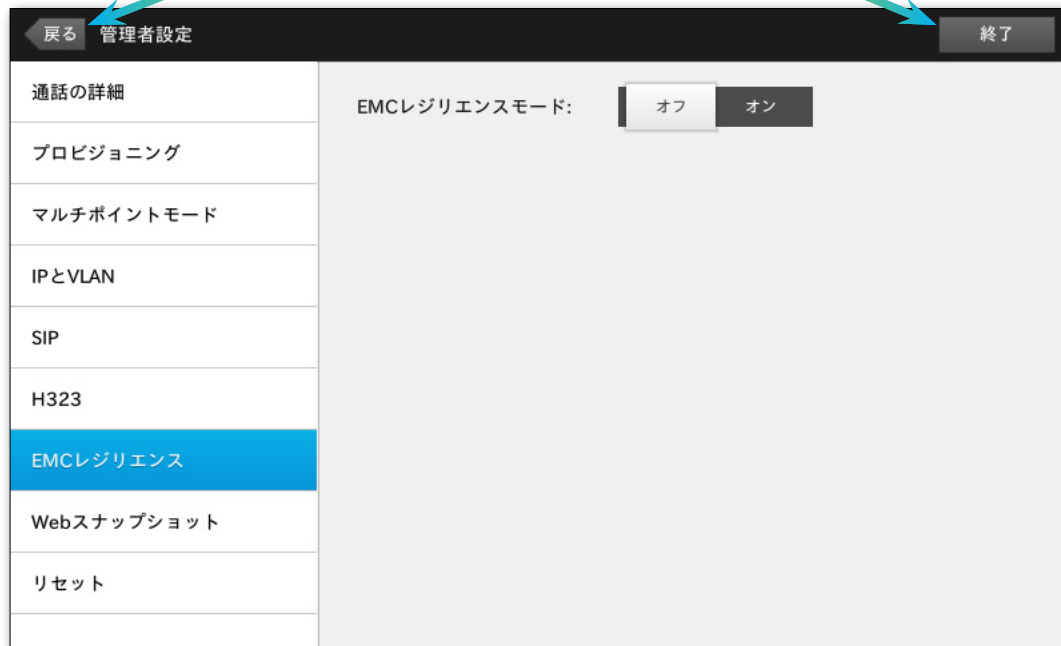
[EMC レジリエンス モード]

電磁雑音が大量に発生する環境でタッチ コントローラを使用している場合、明らかに誰も操作していないにもかかわらず、タッチ コントローラがタップされたかのような疑似信号が発生する可能性があります。

この現象に対処するには、[EMC レジリエンス モード] を [オン] に設定します。システムにタップ操作を認識させるため、タップしたらすぐに手を放すのではなく、しばらく押したままにする必要があります。これで疑似信号が発生しなくなります。

[設定] > [管理者設定] > [EMC レジリエンス モード]

このメニューは [管理者設定] の中にあります。
[戻る] をタップして [管理者設定] を終了し、
[終了] をタップしてすべての設定を終了します。





[Web スナップショット]

Web インターフェイスからビデオ システムにアクセスできます。アクセスの方法については、お使いのシステムの管理者ガイドを参照してください。このガイドは、www.cisco.com から個別にダウンロードできます。

Web インターフェイスから、システムのビデオ ストリームのスナップショットを生成できます。また、状況によっては、接続先のシステムの発信ビデオからスナップショットを生成できます。

ただし、図に示すように、[Web スナップショットを許可] を [オン] に設定していない限り、スナップショットを取得できません。

こちらのシステムで [Web スナップショットを許可] を [オフ] に設定していても、接続先の相手側で、こちらのシステムの発信ビデオのスナップショットを取得することができます。

同様に、こちらのシステムで [Web スナップショットを許可] を [オン] に設定していれば、接続先の相手側で [Web スナップショットを許可] が [オフ] に設定されていても、接続先の発信ビデオのスナップショットを取得できます。

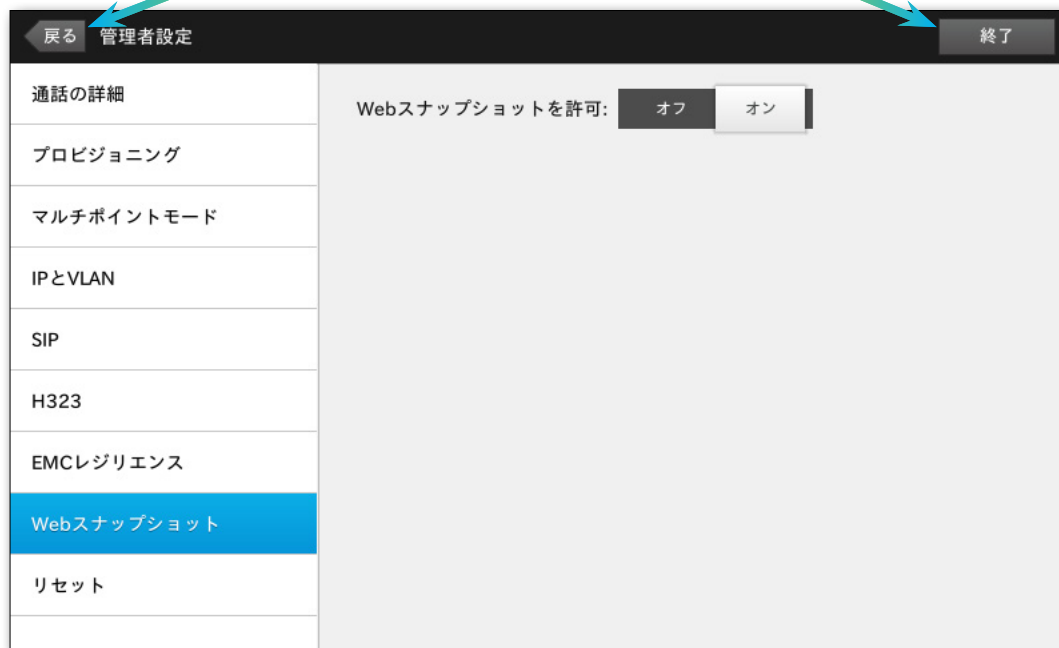
通話が暗号化されている場合、スナップショットは取得できません。[Web スナップショットを許可] パラメータがローカルでどのように設定されていても、暗号化されている場合、両方の側でスナップショット機能は無効になります。

Web スナップショット機能は、ポイントツーポイント通話にも MultiSite 通話にも適用されます (ただし、暗号化されていない通話に限られる)。

MultiWay が通話を制御している MCU であり、ポイントツーポイント通話のようにシステムは MCU に接続しているので、MultiWay 通話はある種のポイントツーポイント通話と見なす必要があります。

[設定] > [管理者設定] > [Web スナップショット]

このメニューは [管理者設定] の中にあります。
[戻る] をタップして [管理者設定] を終了し、
[終了] をタップしてすべての設定を終了します。





[リセット]

プライバシー上の理由から、連絡先リストの [履歴] タブの内容をクリアできます。クリアするには、**[履歴のクリア]** をタップするだけです。

ビデオ システムの初期設定へのリセットが必要になる場合があります。その場合、設定内容、通話履歴、連絡先のリストなどのすべてが失われます。インストールされているリリース キーとオプションは保持されます。

[設定] > [管理者設定] > [リセット]

このメニューは [管理者設定] の中にあります。**[戻る]** をタップして [管理者設定] を終了し、**[終了]** をタップしてすべての設定を終了します。





米国本社
Cisco Systems, Inc.
San Jose, CA

アジア太平洋地域本社
Cisco Systems (USA) Pte. Ltd.
Singapore

欧州本社
Cisco Systems International BV Amsterdam,
The Netherlands

シスコは世界中に 200 以上のオフィスを構えています。住所、電話番号、およびファクス番号は、シスコの Web サイト (www.cisco.com/go/offices/) に記載されています。

Cisco および Cisco ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の国における商標です。Cisco の商標の一覧は、www.cisco.com/go/trademarks/ でご確認いただけます。掲載されている第三者の商標はそれぞれの権利者の財産です。「パートナー」または「partner」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1005R)